

長浜市病院事業改革プラン評価委員会（令和２年度 第２回）会議録

開催日時 令和２年１２月３日（木） １４：００～１５：４５

開催場所 市立長浜病院 ２階 講堂

出席委員 橋本副委員長、嶋村委員、服部委員、福永委員、布施委員
（オンライン）大谷委員長、三浦委員

オブザーバー 野村地域医療課長

事務局 野田病院事業管理者

（市立長浜病院） 高折副院長、林副院長、東出副院長、
弓削看護局長、新川医療技術局長、藤居事務局長、
伊吹総務課長、桐畑医事課長、中田経営企画課長、
徳田患者総合支援センター副センター長、森課長代理、
岡本副参事、三原担当課長、佐野担当課長、
久保田課長代理、馬場主査、道念主事
（長浜市立湖北病院） 納谷院長、富樫副院長、田中事務局長兼管理課長、
前田老健課長、山根副参事、村上副参事、川瀬副参事、横井主事

- １．開会
- ２．野田病院事業管理者あいさつ
- ３．議事

（１） 令和２年度上半期の収支状況及び決算見込について

【市立長浜病院】 ～長浜病院事務局から説明～

委 員 コロナ禍にあり、診療の継続、大変感謝をしている。

資料１の国（県）の補助金のところで、令和２年度上半期に３億円強の補助金は、コロナの空床確保補助金だと思うが、決算見込みでは約８億円で計上している。補助金の要綱で単価が何度か変わっているので、県庁医療政策課と直接のやり取りになるかと思うが、よく確認して収入してもらいたい。

委 員 ４月～７月は患者がかなり減っているが、これの一番の原因というのは、入院を嫌がられるのか、それとも検査や手術を延期されたのか、その辺の要因は何か。

事 務 局 全般的に患者数が減ったということが大きいですが、やはり教育入院や緊急性のないものについては、こちらも控えてきたということです。健診など、本来疾患を拾っていた部門の流れが遮断されてしまったことなど、いろんな要因が重なった影響と考えています。

委 員 ９月までのグラフで、この先どういう形が見込まれているか。

事務局 非常に複雑な要因で患者数が減少しているものですから、この先どう回復するのか十分読めないところがあります。ただ、少しずつ患者数が増えてきていますし、感染予防を徹底し、それを皆さんに理解いただけて、少しずつ健診等も増えてきています。元に戻るのには難しいですが、かなりのところまで回復するのではないかとはいっています。

委員 よく聞くのは、家族と面会ができないということが、すごく大きく入院を阻害しているようです。対面の面会というのはこの時期難しいと思うが、ズームでするなどのサービスを工夫すればよいと思う。

事務局 ご指摘のことにつきましては、入院患者が減った要因でもあると思っています。しかし、いろんな特殊な事情や状況によっては、面会はいただいていますし、8月13日からはオンラインでの面会も始めています。ただこれをするには人数が制限されますので、そこらをしっかり考えなければいけないと思っています。

委員 減価償却費がプランよりも増えているようであるが、これはなぜか。

事務局 電子カルテの更新や大規模改修は計画に入っておりましたので、令和2年度から償却が始まる分で若干上回る数値になります。主なものは、昨年度の決算から比べますと電子カルテの償却が始まっている部分、大規模改修の一部償却が始まってくる部分として令和2年度は増えてくる形になっております。

委員 企業債がプランより増えているのはなぜか。

事務局 大規模改修の当初予定していた金額に追加が出た分や追加借入れの分があります。キャッシュフローが非常に厳しい状況が今後予想されますので、できる限り企業債を充てた形で建設改良等の投資を行っていきたいと考えています。

委員 追加投資はどれくらいの金額になったか。

事務局 追加工事部分で、ヘルスケア研究センター開設と内視鏡センター整備計画の分が9億円程になっております。

委員 大規模改修ではなくて、ヘルスケアと内視鏡の開設のためということか。

事務局 そちらも大きく増になっている部分でありますし、さらに大規模改修の追加工事も出てきていますので、その辺りが全部重なってこの決算見込額になっているということです。

委員 大規模改修の追加はいくらか。

事務局 改修を進めていく中で、必要となってくる経費で3億円程であったかと思っています。

委員 また次年度の減価償却費が増えてくるものであるので大変である。

【長浜市立湖北病院】 ～湖北病院事務局から説明～

委員 資料の入院患者数9月が増加という傾向の中で、20ページの入院収益9月が減

となっている。この部分についての状況の説明をお願いしたい。

事務局

診療収入は、毎月の収入に減点査定や返戻というのがあり、その部分の精査等の関係で減収したものであります。

事務局

病院の収益は、その月毎に反映されません。診療報酬として入ってくるのは、2ヶ月後と遅れていきます。そういうことや査定返戻といって、将来頂けても一時的にちょっと待ったが掛かるものなど、そういうシステム上のズレが大きいように思っています。

委員

コロナの重点医療機関として、特に旧伊香郡の患者対応をしていただいています。補助金につきましても先程と同じことですが、県庁としっかりやり取りしていただいて、しっかり収入していただきたい。今、コロナ以外の患者さんについても、長浜赤十字病院、長浜病院以外からも患者の受け入れなどのバックアップしていただいていることに心より感謝申し上げます。

委員

職員給与費比率 85.8 パーセント。ずいぶん高いがこれは何か。

事務局

職員給与費比率は、令和2年度決算見込額の16億8,800万円の職員給与費が、医業収益19億6,700万円に含まれる割合になりまして、この割合が高いのは、料金収入が大幅に下がっていることが大きな要因ではありますが、もともと職員給与費比率が類似病院と比較しまして高いという課題があり、そこを解決していく必要があると認識しております。類似病院と比較しまして、個人の給与費が高いというわけではなく、職員数が若干多いということが大きな要因となっています。

へき地医療等を担っている関係で、効率的な運用が困難であることや不採算ということもありますが、効率化を進めていきたいと思っています。

事務局

給与費比率の計算が医業収益に対する比率であるので、今年度はコロナによる減収のため高くなるということです。ただ恒常的に給与費が高い。これはかつての医師が30名を超していた時代の職員体制の影響で高齢化しながら退職されるまで待つという形になっています。本当はそのような人材をいろんな形で部署を変えながら活躍してもらわないといけないのですが、全体が高齢化で事業展開が見込めない中、人材のミスマッチの状況が起きていると考えています。今、院長と一緒に各部署の人材の整理を、各個人に迷惑が掛からないような形で、なおかつ活力を持った状況で何とかしていきたいと大きく動いているところです。

委員

今年度は内科の正規医師が増えたのか。

事務局

1人増えました。内科の医師は来年度も増える予定で医師確保を進めております。

(2) 令和2年度上半期の取組・進捗状況について

【市立長浜病院】 ～長浜病院事務局から説明～

委員

With コロナ時代なので、ウェブやリモートをうまく活用して、非対面で行える

ような対策をいろいろ考えてもらいたい。

研修医 4 名採用はよかったと思う。4 人の出身大学はどちらになるか。

事務局 後程正確な数字は報告させていただきたいと思いますが、滋賀医大、島根大等です。

委員 ウェブなどを活用すると地元でなくてもいろんな方が来ていただけるようになるのではという気がしたのでお聞きした。

委員 手術件数が減ったというのは、病院側からのお断りなのか、患者本人がお断りされたのか、緊急を要しない手術が多かったのか、その辺説明頂きたい。

事務局 ガンは、準緊急で決まった時点で手術を行っています。待機手術等、緊急ではない症例で、半年や 1 年と置いて経過を待っていた方が少なくなっています。コロナの検査をしてから手術をするなどの学会からのガイドラインに従ってやっていくことも手術件数に関係しているものと思います。

委員 訪問看護ステーション在宅看取り率 54.1 パーセントは、年々率が上がっているが、これは長浜病院の訪問看護ステーションの看護師が行っている在宅患者の中でのということか。

事務局 当院の看護師が伺って看取りを行った件数割合であります。

委員 今までの評価指標では、いろんな項目で評価が悪くなっているように見えるが、一方でコロナを含めた感染症対策で病院として大変ご苦労頂いていると思う。その苦勞が現行の指標では表せないことが残念でならない。新しい感染症対策について、新しい指標を加えてもいいのではないか。

事務局 ありがとうございます。まさに先生がおっしゃるとおりです。ただこの評価委員会は、今までの継続ということがあったことから評価項目が同じになっています。今、これだけ異常な事態、社会的な医療への要望が変わってきた中、やはり指標はこれから早急に検討して、現実的な、いわゆる実情を表現できるようなものにしていきたいと思います。従来の評価項目も、例えば在院日数の評価はどうするのか。長ければよいとか、短いからよいというものでもない。要するに患者の満足度で評価されないといけないものです。そういったことも含めて、これからデータで病院の実情・現状を読めるような工夫をしていきたいと思っています。

委員 ヘルスケア研究センターを開所されたことで、どのような目的で、今後目標を決めるとすればどんな数値目標をあげられるのか。

事務局 ヘルスケア研究センターは、次世代型の予防医療を発展させるため長浜病院に開設致しました。平成 30 年度の実績が 3,000 人でした。令和元年度が 3,300 人。本年度は、新型コロナウイルスの関係で今やっと前年度並みの実績に戻っておりますが、やはり 4 月から 6 月にかけての実績はかなり低くなっております。令和 4 年度 7,000 人から 8,000 人の健康診断の受診者に増やしていく目標を立てております。

委員 今の人数は、健診や人間ドックということか。

事務局 一般健診、人間ドック等を含め、今まで市の方で行ってございましたガン検診につきましても、来年度から始めていく予定となっております。

委員 開所されましたが、以前からあった健診部分を新たな施設で再スタートするということか。

事務局 最初はそういう形です。ただ今後は長浜市の0次と関連付けて遺伝子とかもっと早いレベルで、次世代型の健診という形でやっていきたいと考えています。基本的にはそこへ持ち込んでいくのが一つの方向性です。

委員 今の話、今回の指標の中には入っていないのか。

事務局 まだ材料や人材のことが調整中ですし、今の健診・人間ドックをしっかりと充実させてから少しずつ大きくしていくための準備中であると考えていただけたらよいと思います。

委員 ある程度収益部分も確保できることになるのか。私も予防が専門なので興味がある。是非よろしく願いしたい。

事務局 将来的には柱の一つにと思っています。

事務局 臨床研修医の件でご報告させていただきたいと思います。

事務局 研修医4人の内訳ですが、滋賀医大の方が2名と島根大学の方が1名、それから福井大学の方が1名でございます。またそのうち県内の出身の方は1人というような状況であります。

【長浜市立湖北病院】 ～湖北病院事務局から説明～

委員 5月に総合診療医が着任され、これから幅広い医療を担っていかれることは非常に喜ばしいことだと思う。この先生のお名前を存じていないが。

事務局 久田と申します。佐賀大学で総合診療を担当し、こちらに転居してきて、当院で働いてもらっている状況です。

委員 従来、病診連携交流会というのがあって、その時に新たに着任した先生の紹介をしてきたが、今年それができていない。そういう場合、毎月出番表が送られてくるので、その時に新任の人のプロフィール等書いたものが入っているとわかりやすいと思う。

事務局 こちらの不行き届きで広報等にも載せられてなかったかと思いますので、早急に対処させてもらいたいと思います。

(3) 長浜市病院事業 中期経営計画のパブリックコメント（素案）の実施について

～長浜病院事務局から説明～

委 員 令和３年度の目標の説明をいただいたわけですが、コロナの影響が見通せない中で、コロナの影響をどのように考えての目標なのかを再確認したい。取組項目の令和２年度と令和３年度の目標数値の同じものがかなりある。コロナの影響がどのように考え方として入れられているのか。

事 務 局 令和３年度の目標の設定は、基本的にはコロナの影響があるところとないところに分かれております。手術の件数や入院患者数等、コロナにより、明らかに影響があると思われるところには若干下げの形の目標になっております。あと参加者が限られるところもありますが、下向きの目標設定ではなく、やはりコロナの影響で厳しくなるであろうというところで、少し上向に向けた目標という形で前年度目標を極力下回らない設定をしております。

委 員 42 ページの表で、一般の人が見たらマイナス 9 億 9,300 万円とずいぶんびっくりすると思うが、何かもう少し説明が必要ではないか。収入のところはコロナの影響を見込んでいるから、本当だったら補助金が入ってくる。

事 務 局 42 ページをもう一度確認いただきたいですが、収入の欄の 2 の医業外収益のところの(2)国（県）補助金というのがあります。通年でしたら 2,000 万円程度の収入ですが、令和２年度は 8 億円を見込んでおります。新型コロナウイルスの入院病床確保の補助金というのが一番大きいですが、現地点で 4 月から 12 月までということで概算の請求額が 7 億 2,000 万円程度。その他の補助金も含めて、少し厳しめに 8 億円という形で見込んでおります。

委 員 注釈で収入のところにコロナの影響でこれくらい減るというのを見込んでいるというのを何か入れないと誤解するのではないか。

事 務 局 42 ページで先程の説明が足りなかったのですが、ページ数が記載している上ですが、令和２年度は見込んでいるが令和３年度は見込んでいないということを記載しております。

事 務 局 これでは数字がなかなか読みにくいというご指摘かと思います。例えば今年度も 4 億 4,300 万円の赤字の見込みになっていますが、国の補助金がないパターンと比較する。今年度と同じだけの国からの補助があれば、医業収益としては来年度の方が上向きであるというデータだと思います。そういった表現がこの表からはなかなか読みづらいというご指摘だと思うのですが。

そしたら令和２年度の数字を例年 2,000 万円～3,000 万円の支援を、今年度は 8 億円を見込んでいる。それを引いた数字を併記するということいではないか。そうすると今年度より来年度の方が頑張って収益が上がっていますということが見えると思います。ただ、来年度についてはいくら頂けるのかということが全く読めませんので、書くことは不可能だと思います。

委 員 補助金自体は見込むのは無理だと思うが、料金収入（入院収益や外来収益）のと

ところで、もしコロナの影響がなければこれくらいであるということをどこか注釈に入れられないか。影響がある場合は、補助金が今年は 8 億出たということを書けば、もう少しわかりやすいのでないか。

事務局
委員

医業収益に関しては、令和 2 年度、112 億円が 119 億円になって増えています。これはコロナの影響を見込んで 119 億円になるという見込み。コロナの影響はどのくらいかということを何か注釈ができれば、9 億 9,300 万円までマイナスになることはないという安心感が出るのではないか。

事務局
委員
事務局

もう一度検討します。

重点支援区域ですが、具体的な指導、助言などの動きはあるのか。

1 月 31 日に重点支援区域ということで選定され、その後の動きは、2 月末に 4 病院長の厚生労働省の担当室長との打ち合わせが 1 回ありました。それ以降は、実際何の動きもなく、具体的な支援というのは今のところない状況です。

事務局

院長及び厚労省のウェブでの会議はその後も行っております。ただ、コロナの対策で現地点では進捗はありません。まず重点支援区域の方は厚労省も手が回らず、次年度に繰り越しということになっております。

委員

再編・ネットワーク化に関する考え方ということで「湖北 4 病院が再編イメージを関係者で共有できたところですが、具体的な課題の解決手法についての議論を深めることが難しい状況になりつつある。」とあるが、何を言いたいのかわからない。

事務局

実は、具体的な課題の解決手法というのは、経営手法のことです。どういう形でこの 4 つの病院を経営していくのか、本来でしたら別々の病院ではなくて 1 つの経営体が経営すべきと思われますが、その経営手法を調整するのが非常に具体的な課題であるということでございます。

委員
事務局

関係者で共有したということは、どういうことになるのか。

こちらは地域医療構想調整会議で、滋賀県保健所が事務局として取りまとめて頂いています。長浜病院、湖北病院、長浜赤十字病院、セフィロト病院ですが、この 4 つの病院の A・B・C・D という位置付けで、急性期及び高度急性期、回復期及び慢性期、精神科単科という機能分担のイメージを共有されています。湖北病院に関しましては、湖北の北部を守っていただく病院として存続しますし、セフィロト病院に関しましては、精神科単科の病院ということで認識されました。あと A・B の長浜病院と長浜赤十字病院がどちらの病院がどちらの役割を担うかということ、この議論がなかなか進んでいない状況です。そのイメージについては共有し総論では合意しているのですが、実際の各論を進めていこうとすると、現在難しいところになっておりまして、今回の重点支援区域を受けたことで、国の支援がその後ろ盾になれば、その手法の中で協議を進めていきたいということでございます。

委員

中期計画という話ではないかもしれないが、新型コロナの入院の病床というの

は、今のところどれくらい確保されていて、近隣の病院との役割がどのように
なっているか。

事 務 局

コロナの病床は、県の方から３段階に分けて、当院はフェーズ３では、重症入
床を含む 16 床を準備するということになっております。

委 員

長浜全体の中では、他の病院との役割分担のようなものはあるのか。

事 務 局

当初は長浜赤十字病院が重症患者を主に受け入れるということで進んでおり
ましたが、フェーズ３になりますと、当院も重症 2 床に重症患者が入ってくる
ことが想定されております。それに伴い、ICU の運用等で対応できるように行っ
ているところでございます。

委 員

ご質問に関してまして補足させていただきます。

現在湖北では一般病床を持つ 3 病院全てがコロナの検査、治療に当たってい
だいております。病床につきましては、現在長浜赤十字病院が 14 床、長浜病院
が 13 床、湖北病院については今後の動向を見て病床の開設について検討してい
ただくという状況でございます。重症患者については、看護の状況もありますの
で、一応一定県庁の方で調整し、重症患者が増えたら、受け入れも検討すると思
います。なお、セフィロト病院は、最近開業医でも抗原検査が可能になりました
ので、同様に院内の患者、外来の患者については、コロナの抗原検査を対応して
いただき、管内 4 病院共に検査、また入院医療は、長浜病院、長浜赤十字病院で
対応していただいている現状です。なお、今月から彦根の東横インのホテルが開
設しましたので、無症状の方、軽症の方は東横インの方へ入所ということになっ
ております。今後は省政令の改正もありまして、高齢者の方、持病をお持ちで重
症化しそうな方は、入院していくということになります。そういう意味で、一時
3 病院で最大 75 床まで入院可能であるという状況まで検討していたのですが、
現行は、今申し上げた病床から若干増えるようなところでいけるのではないかと
いうところです。

4. その他連絡事項

～事務局からの説明～

15:45 閉会